

平成 26 年度第 1 回 富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
(概要)

日 時 平成 26 年 4 月 10 日 (木) 13:30~15:00

場 所 県庁 4 階大会議室

議 事 (1) 平成 26 年度富山県中小企業振興施策等について
(2) 戦略雇用創造プロジェクトについて
(3) 県民会議部会要旨について
(4) 平成 26 年度国の中小企業振興施策等について

委員からの主な意見

- ・戦略雇用創造プロジェクトについては、組織体系としてネットワークのよいものにしてほしい。
- ・事業承継対策は税制の問題だけでなく、県を中心に関係団体もしっかり取り組んでいくべき。
- ・景気が良くなってきていると言われる中で、創業を目指す雰囲気づくりが必要であり、そのためにも、積極的な施策の実施をお願いしたい。
- ・補助メニューは多くあるが、実際に応募してみると、どれにも採択されないという状況がある。せっかくやるのであれば、対象を絞るなど、実施方法を検討してほしい。
- ・中小企業を支えているのは女性が一番多いと思う。そういう中で、女性のやる気や気力を引き出すことが大事。
- ・国では、小規模企業振興基本法案が審議されている。施行までの間に条例（富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する基本条例）の文言に強化すべきところはないかを、検討すべき。
- ・補助金等の支援策をどう知らしめて、それを実効的にしていくかということについて、成功例を含めて、広報まで落とし込むことが必要。
- ・大学のアカデミックなシニア等を活用できないか。
- ・海外からの留学生の残留率を高めることによって、彼らを活躍させることができるのではないか。

- ・海外で活躍できる人材として、理系だけでなく、文系の人材の育成についても考える必要がある。
- ・大学生の就職試験の時期が28年から8月に後ろ倒しになる。このときに中小企業にかなりの影響が及ぶ恐れがある。これらの対応は前もって検討すべき。
- ・熟練技能にとらわれない均一的な技能を、いかに誰がやっても同じものを作れるかという方向に動いている気がする。中小の本当に特徴ある技術をどう移行するのかを考える必要がある。
- ・介護業に関わる女性の就労環境の支援をどうするかを考えるべき。
- ・補助金や特定の制度融資などを受けている企業は、数的にはとても少ない。例えば、ビジネスマッチングの際に、補助金や特定の制度融資などを知らせるなどの方策が考えられる。国からも職員を派遣してもらおうなど、単なるイベントに終わらないよう、自分の関心のあるものに出会えるような仕掛けが必要。
- ・企業の発展につなげていくためにも、ここに出ている施策の有機的な結合をどうやっていくのかを（官民が）ディスカッションしていけば、大体網羅されていると思う。